

| 重点目標 (めざす姿) | 具体的方策 | 主担当 | 【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞ | 【評価の根拠】 達成度判断基準 | 取組状況と今後の改善策 | 評価 | 学校関係者評価者 による意見 |
|---------------------------|---|-----------|--|--|---|----|--|
| 1 (教師力を磨き、 学校力を高める) | ①気づきを大切に し、的確な「報告・連 絡・相談」をする。 | 運営委員 会 | 【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での 「報告・連絡・相談」を密にし、 協力して課題解決に対応して いる。 | 【教職員アンケート】 ・気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をして いる。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【教96.5%】 校内運営委員会にて、主任層が校長ビジョンに基づいて建設 的な協議を重ね、確認事項を学校全体で共有させる体制が確 立した。様々な事案に対して、学年会や分掌内で、主任を中心 とした組織的な対応ができていく。今後もコロナ感染状況によ り、柔軟な対応が求められることが予測される。縦横の連携を 密にし、迅速に課題解決にあたっていく。 | A | 時間外勤務時間の短縮 については、部活動による 残業と部活動以外の残業 を区別して考えていくとよ い。部活動以外でどのよ うな業務が残業になっている のかを把握し、生徒の成長 への影響度合いの少ない ものから積極的にカットし ていけばよい。また、 Chromebookや今後導入さ れる校務支援システムを効 率的に活用することで、生 徒と向き合う時間を捻出す ることが期待される。 |
| | ②働き方の見直しを 進める。 | 運営委員 会 | 【努力指標】 時間外勤務時間の短縮を目 指している。仕事が平準化さ れている。月2回の以上の 「定時退校日」が設定されて いる。 | 【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務 している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 | 【4-7月:84.5%】 スクール・サポート・スタッフの活用、毎週水曜日の退校日の 設定等により、ワーク・ライフ・バランスの意識は教職員に浸透 している。勤務時間の短縮を含め、効率よく業務を行う点にお いてはまだまだ改善の余地がある。業務の目的を明確にした業務 のスリム化、平準化を継続していく。 | C | さらに、対面ではなくあ えてオンラインで生徒と接す ることも少なからずメリット がある。丁寧な個の見取りと いう視点においても、ICTが 果たす役割は大きいと考え られる。 |
| | ③重点課題の解決 のために「親和的な 集団」をつくる。 | 生徒指導 | 【努力指標】 生徒と向き合う時間を確保 し、「親和的な集団」づくりを目 指している。 | 【教職員アンケート】 ・重点課題の解決のために「親和的な集団」をつくるこ とを大切にしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【教96.5%】 学級・学年・部活動それぞれの集団の中で規律やルールを徹 底し、認め合う、助け合う、励まし合う、そしてひいては一人 一人が安心して過ごすことができる学級や学年、学校を作ること を職員全体で共通理解を図り、目指してきた。肯定的な回答が 96.5%となっているが、「どちらかといえばそう思う」の回答率 が高い。「生徒と向き合う時間の確保」ができれば、「そう思う」 の回答率が高くなると思われる。そのために、ICT機器を活用し、 効率的に事務作業を進めるなどして、生徒と向き合う時間を確 保できるようにしていきたい。 | A | |
| 2 (自ら進んで学 ぶ生徒) | ①わかる・できる授 業を展開する。 | 研究 | 【満足度指標】 学力向上のための方策とし て、授業改善や授業規律の 確立、9年間を見通した学習 指導の徹底を行い、「根っ中 授業スタイル」の充実を図る。 | 【授業アンケート】(研究部) 授業はわかりやすいか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 わかる・できる授業を展開できた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。 | 【生92.7% (研究部アンケート)、教100%】 アンケートの数値は比較的高かったが、その内「そう思う」(A 評価)が教師は約68%、生徒は約56%であった。教師のA評価 の見取りと生徒の数値は一致していたため、教師の数値の上 昇が生徒の数値を上げることに繋がると考えられる。2学期 はA評価の数値を80%まで持っていきたいと考えている。その ために今一度その授業の中で「何ができていないのか」「ゴール の姿」を確認し、教師がしっかりとイメージして振り返りシートを 活用し、授業に臨むことを徹底する。 | A | 授業改善については、ア ンケートの結果とその原 因、さらには具体的な手立 てとの間の整合性を再検 討するとよい。生徒が肯定 的な評価をしている要因と 教師のどのような手立てが つながっているのかを、よ り深く分析すると、さらに 安定した取り組みとなる。 |
| | ②基礎・基本を定着 させる。 | 研究 | 【成果指標】 基礎・基本を定着することで、 わかる・できる授業の基盤と する。 | 【生徒アンケート】 基礎・基本の定着ができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 基礎・基本の定着に取り組んだ。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。 | 【生83.0%、教100%】 基礎基本の力はついてきた。教室の後ろ黒板を活用して各教 科の課題提示はできていた。アンケートの数値も上昇してきた。 しかし各教科のテストの基礎基本の問題の正答率をみると家庭 学習の定着、学習時間の確保によって補える部分があった。そ こで2学期は家庭での各教科の課題に必然性を持たせる(その 課題から小テストを実施するなど)授業展開をもっと取り入れて いくことを各教科で共通理解していきたい。 | B | ICTの効果的な活用につ いては、アウトプットの量 を増やすことができるとい う視点ではメリットが大き い。しかし、学習内容を後 から丁寧に振り返るという 視点では、ノートのほうが 有効である場合が多い。今 後は、学習場面や想定され る学習効果を考えて、ICT を有効活用していくことが 求められる。また、オンラ イン授業の実施を視野に入 れると、入念な準備が必要 である。各家庭での回線の 強度が異なることから、学 校では起こらないような トラブルが起きることを十 分に想定して、準備を進 めていくとよい。 |
| | ③端末を含めたICT 環境を活用し、個に 応じた指導を充実さ せる。 | 研究 | 【満足度指標】 生徒が自分の考えを持っ たり、考えを深めたりする ために、ICT環境を活用す ることで、個に応じた指導 を充実させる。 | 【生徒アンケート】 先生はICT機器を利用して個 に応じた指導をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ICT環境を利用して個に応 じた指導を充実できた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。 | 【生90.4%、教67.9%】 今年度は「ICTをどのように活用して、慣れよう」として いたため、各教科の先生方の努力が生徒の数値に表れて いる。生徒も意欲的にICTを活用できていた。今後も活用の幅 を広げ、より多くの教科での実践をしていくことを課題とし、引 き続き継続して取り組んで いきたい。 | B | |
| 3 (明るく素直に 振舞う生徒) | ①生徒指導・教育相 談を充実させる。 | 生徒指導 | 【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充 実させることで、年間の事 案件数を減らす。 | 【生徒指導データ】 ・生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。 | 【】 週1回の管理職と生徒指導担当者間の情報交換と教育相談 会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共 有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策 などについて、話し合っている。また、chromebookを使っ ての月1回のいじめアンケートや、QU調査後のヘルプシグナルのチェ ックや個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につな げていきたい。 | B | 新型コロナウイルスの影 響で、学校外での体験的 な学習活動が少なからず 制限されている。松松レ ンジャーズをはじめとし た地域学習を通じて、生 徒は地域との関わりや地 元についての理解を深め ていくことから、ふるさと 教育が生徒のキャリア発 達において、重要な位置 を占めていると考えられ る。従来通りに活動を進 めていくことができない 場合も想定されるが、オ ンラインなどを有効に活 用し、できることに着目 して取り組んでいくとよ い。また、能美市の重要 な施策となっているSD Gsの視点も取り入れ、 持続可能な社会の担い手 として必要な知識やス キルも身に付けさせてい くことが、今後の能美市 の発展、持続にもつなが る。 |
| | ②特別の教科道徳 を大切に育てる。 | 教務・研究 | 【努力指標】 特別な教科道徳で学んだ ことを全教育課程で展開 する。 | 【生徒アンケート】 ・道徳の授業から学ぶこと が多い。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・道徳の授業の充実が努 められた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。 | 【生88.0%、教88.2%】 道徳が教科化されて2年 目となり、年間指導計画 や評価について検討を重 ねながら実践を進めてい る。道徳的価値に対する 個人の思考を適切に見取 ることが学習評価や授業 改善につながる。このよ うな視点から、授業で生 徒が考えたことを1冊の ノートに蓄積していくこ とができれば、生徒にと っても教師にとっても、 メリットが大きい。来年 度に向けて、道徳ノート の導入を検討し、道徳教 育のさらなる充実を図 っていく。 | B | |
| | ③郷土を愛する心を 育成する。 | 教務・研究 | 【満足度指標】 地域と連携したキャリア 教育やふるさと教育が計 画的・効果的に行われて いる。 | 【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等 を活用しながら、郷土を 愛する心を育成すること ができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「根上が好きか? 能美市 が好きか?」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【教85.8%】【生根上:84.2%、能美:87.2%】 3年間を通じた「松松レ ンジャーズ」の活動を軸 に、キャリア教育を実践 している。コロナ禍で多 くの制限があり、中止や 開催方法の変更を余儀な くされる場合も少なく ない。その反面、Chrom ebookの導入により、充 実した調べ学習等が可能 となり、体験学習以外の 活動の幅が広がってい る。SDGsの視点も効果 的に取り入れ、コロナ 禍での地域・キャリアに 関する学習について、 教育活動全体を見つめ 直していく。 | B | |
| 4 (強い身体をも つ生徒) | ①基礎体力を向上 させる。 | 保健体育 | 【努力指標】 教科体育の充実や適正な 活動運営を通して、基礎 体力の向上を図る。 | 【体力テスト】 ・体力テストの結果にお いて、本校結果が県平均 を上回っている種目数。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【体力テスト 52.0%】 県平均との比較では、48 項目中25項目は県平均 を上回っていた。残りの 23項目の向上が求めら れるが、特に50m走にお いては全学年男女県平均 を下回る結果となっている。 スピード、敏捷性向上 が課題であり、その課 題を生徒と共有し、体 育授業の中でアジリティ トレーニングを取り入 れていく。 | D | 体力テストの結果が目標 よりも低かったことにつ いては、過去のデータと 比較するなどして、より 具体的な分析してみると よい。コロナ禍だからな のか、それ以外に原因 があるのかを見いだせる と、具体的な取り組み につながる。そのような 分析、考察から、中 学校の保健体育や部活 において、どのような活 動に意義があるのかを 明確にしていくことも考 えられる。 |
| | ②健康教育を充実 させる。 | 保健環境 | 【満足度指標】 「早起き」「朝ごはん」 を基盤として、歯科検診 や視力検査の結果を含め 、年間を通して自分の 健康について考えること ができる。 | 【生徒アンケート】 ・「早起きができている」 「朝ごはんを食べている」 ができている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、視力検査の 受診状況。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【生早起き:80.2%、朝食:96.3%】 【保健調査:コロナ禍で実施できず】 「早起きができている」 「朝ごはんを食べている」 は80%以上であり、基本 的生活習慣は確立してい る生徒がほとんどである。 8時10分の始業に間に 合う生徒は多く、生活の 基盤は安定していると思 われる。また、コロナ 禍によりマスク着用や手 洗い、消毒の新しい生活 様式は定着し、自分の健 康について考える意識 は例年以上であった。 | B | |
| 5 (コミュニティ ・地域との連携) | ①学校運営協議会 を機能させる。 | 教務 | 【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、 コミュニティスクール(CS) としての機能を推進し、 家庭・地域との連携を図 る。 | 【保護者アンケート】 コミュニティスクール(CS) を知っている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校教育にコミュニティ スクール(CS)としての機 能を取り入れることが できた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【保20.5%、教64.3%】 学校運営協議会委員の方 々が中心となり、地域 の方々に生徒の学習活 動や教員の業務の一部 をサポートしていただ けることが理想である。 しかしながら、学校と 地域との直接的な関 わりが今後どの程度可 能であるかは、先行きが 不透明である。学校評 価アンケートの結果をも とに、今後の教育活動 や教員の業務の在り方 について見つめ直しを 行う。また、CSや学 校運営協議会について 、家庭や地域に知って もらうために、会の内 容を通信等で発信する ことも検討していく。 | D | CSIについては、学校 運営協議会の活動につ いてホームページを中 心に、内容等を発信し ていくことで、認知度 を高めていく。あ いさつについては、 継続的な取り組みの成 果が、生徒の具体的な 姿となって現れてきて いる。生徒が大きな 声であいさつをするこ とができる場面ではど のような要因が影響し ているのかを見いだす ことができ、さらに安 定した取り組みとな っていくことが期待 できる。 |
| | ②適切な情報公開 と社会貢献を展 開する。 | 教務 | 【成果指標】 ホームページ(HP)を充 実させ、学校教育活動に 対する家庭・地域からの 理解を得るよう努める。 【努力指標】 学校教育活動全体を通 して、「働く子」の育成 を図る。 | 【生徒アンケート】 ・「そうしている」「あ いさつができる」の結 果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保護者アンケート】 ・全家庭で週2回程度 の視聴をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 【生掃除:89.7%、あいさつ:85.5%】【保4.2%】 「働く子」という視点 では、あいさつや掃除 を中心に、全校生徒 が足並みを合わせて取 り組むことができている。 掃除については、衛 生面の問題から床の雑 巾がけをなく、効率化 を図り、当番清掃の導 入も検討している。ホ ームページの充実につ いては、Googleカ レンダーとの同期など を進めることができた 一方で、学校での生徒 の様子を紹介する頻度 については改善の余 地がある。業務分担の 見直しを行い、複数の 担当者を設定すること で、発信の量と質の向 上に努めていく。 | C | |